

19. 1875.T次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡・清水が丘遺跡・清水が丘西遺跡		
グリッド	N98-2次		
所在地	東京都府中市清水が丘2-10-20		
現地調査期間	令和3年2月3日		
面積	4.5㎡	遺物出土量	コンテナ1箱
調査担当者	佐藤梨花		
調査従事者	伊藤和人・伊藤朱・磯部ゆい(合)T a l o		

1 調査の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡、清水が丘遺跡及び清水が丘西遺跡に所在し、京王線東府中駅の約300 m南に位置する。当調査地区の南約40 mの位置には府中崖線が通り、崖線下には現在でも湧水のある滝神社が存在する。

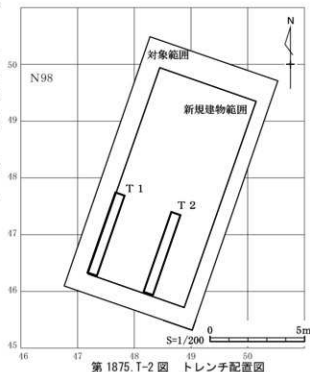
本件は、個人住宅建設に伴う調査である。基礎工事の大部分は盛土内の掘削に収まるものの、深基礎部は遺構検出面に達する可能性があったため、深基礎部分計4.5㎡を対象に確認調査を実施した。

確認調査では遺構を発見したが、工事では範囲、深度いずれも本確認調査を超える掘削はないことから遺構は保全できるものと判断し、本調査は不要と判断した。簡易的な記録の作成に留め、確認調査を終了した。

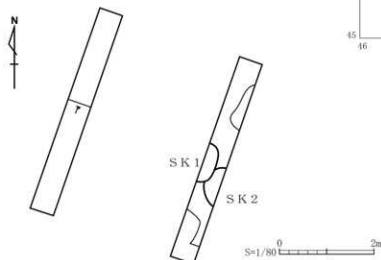
当該地では現地表面から0.75 mまで近現代の造成土及びI層があり、0.75 mでV層を確認した。遺構はこのV層上面で検出している。



第1875.T-1図 調査地区位置図 (1/5,000)



第1875.T-2図 トレンチ配置図



第1875.T-3図 平面図



第1875.T-4図 基本層序

2 遺構と遺物

2本のトレンチを設定した。トレンチ2にて、土坑を2基検出した。

N 98 - S K 1 N 98 - S K 2 を切る。規模は南北 0.85 m、東西 0.3 m 以上を測り、西側は調査対象外へ広がる。暗褐色土を主体とする覆土が観察され、古代の所産と見られる。

N 98 - S K 2 N 98 - S K 1 に切られる。規模は南北 0.8 m、東西 0.35 m 以上を測り、東側は調査対象外へ広がる。暗褐色土を主体とする覆土が観察され、古代の所産と見られる。

3 まとめ

土坑が2基確認された。調査地区周辺の様相は未だ不明なところが多いが、当地は崖線に近く、生活用水を得やすい立地であり、古代においても活発な人々の営みがあったと想像される。この土坑もこれら営みに伴うものかもしれない。



第 1875. T-5 図 遺構検出状況（北）



第 1875. T-6 図 作業風景